

平成29年度

# 研究部報

秋田県立横手支援学校 研究部  
平成29年11月30日発行 第4号

今月行われた小学部の2つの授業研究会について、その改善案などをお伝えします。

## ◎小学部学部授業研究会

### 小学部1・2年「あさのかつどう、あさのかい」



協議題	・児童生徒が役割を通して、友達と関わるための手立てはどんなものが考えられるか。
協議についての改善案、助言等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の会の中での「望ましい関わり」とは何か？それぞれの児童に合った具体的な関わり方を明確にして、教師間で共通理解する。</li> <li>・朝の会の全体の流れを表などで視覚的に提示すると、見通しをもって参加し、関わりにつながる。</li> <li>・児童が役割を果たしていることが本人、他の児童にも分かりやすくするために、効果音を付けてはどうか。</li> <li>・呼名、日付、給食などが書かれたホワイトボードの位置を座っている児童から近くなると、係の児童への注視も増える。</li> <li>・手遊び歌の活動も手本役を教師ではなく、児童が行うことで、関わりが生まれる。</li> <li>・1・2年生合同で行うことで、手本を示したり、教えたりといった関わりが生まれている。</li> </ul>

## 改善授業

改善の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>①「役割に取り組んでいる様子の共有」→進行表のめくりの効果音を付ける。</li> <li>②「注視を増やすために」→呼名を会の始めに行い、注視する意識を喚起する。</li> <li>③「会の全体の流れを理解するために」→表を提示する。</li> <li>④「児童の望ましい関わりの具体化」→個々の児童がどの場面でどう関わるか教師間で話し合い具体化、共通理解をする。</li> </ol>
授業者から	関わりを具体化したことで、効果的な手だてを考えることができた。進行表に効果音を付ける、会の流れの順番を入れ替えるなどの小さな手立ての改善が役割を果たすことの意欲付け、注視の意識が増すなどの大きな児童の変容につながった。

## ◎ミニ授業研究会

### 小学部3・4年「朝の活動、朝の会」



オーダー	・相手に向かって役割を果たそうとする姿を引き出すための場面設定について
オーダーについての改善案など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼名の順番などを児童が自分で選択できる場面があればよい。</li> <li>・歌のコーナー、お互いに向かい合わせになることで目線が合い、相手を意識できている。もっと友達を見てまねするなどのやり取りがあるといい。</li> <li>○肢体不自由を併せ持つ児童について</li> <li>・返事などで反応しているが、明瞭でなく小さいために他の児童が受け取れないことがある。そこを補うような教師の支援が大切である。</li> <li>・体調などによって、声が出ない、体の動きが悪いことがある。そこをどう捉えて、どのように評価するかをしっかりと決めて、児童にも伝えておく必要がある。</li> </ul>

授業研究会もいよいよ大詰めです。本日の第2回全校授業研究会では活発な意見交換をありがとうございました。第3回全校授業研究会も迫っています。授業者の先生方には日々検討、改善を積み重ねていただいています。一人一人の先生方が何か一つ持ち帰っていただけるような授業研究会にしたいと思います。ご協力をお願いします。